

－発表要旨・論文－

一般演題（１）

1. タブレット端末による洗浄履歴管理

特定医療法人 菊野会 菊野病院

内視鏡技師 ○丸山 伸一、宮脇 葉月

看護師 上原可菜子、刈川 百恵

医師 岡江耕二郎、銚之原 英

【はじめに】

「消化器内視鏡の感染制御に関するマルチソサエティ実践ガイド」（2013年）にて「洗浄・消毒の履歴管理：洗浄・消毒の記録を残す」ということが推奨度Ⅱとして提示されている。当院では、紙ベースで記録・保管をしてきた。内視鏡ファイリングシステム更新にあたり、タブレット端末での履歴管理を2016年3月8日に導入。2016年4月1日より運用開始し、開始より1年が経過したため、導入への取り組みと今後の課題について報告する。

【背景・目的】

導入前は紙ベース履歴管理であり、記入に個々の差があることで記入ミスや記入漏れを起こしたり、用紙の保管・管理方法の問題を抱えていた。そのため、確実な消毒履歴管理を行うことを目的とした。

【方法】

当院では、電子カルテを導入しており、受付時に個人のバーコードが発行されるシステムになっている。患者IDバーコードを内視鏡検査受付時にスキャナにて読み取る。洗浄履歴管理に必要な項目、WHEN：洗浄日時、WHERE：洗浄機、WHO：洗浄者、WHOM：対象患者、WHAT：対象スコープ、HOW：実施内容、これらの項目を順に入力していきます。入力したデータを、全検査終了後に取り込み保管する。

【結果】

導入時は慣れないタブレット操作や入力に戸惑いミスが発生しましたが、検査のマニュアルを見直し入力操作を検査の流れの一部に取り込むことで、ミスの発生を抑えスタッフみんなが同じように活用することができるようになりました。「ウォシュレコ」は洗浄履歴だけでなく、洗浄液の濃度の管理やスコープ修理などの機器管理なども行える利点があった。データベース化された履歴管理を用いれば、様々な検索方法で目的とする履歴に

たどりつくことができ一つのタブレットで内視鏡にかかわることを一度に管理することができるようになりました。洗浄履歴管理を行うことで、感染問題が発生した時など、いざという時にその機能を活用することができ「適正な濃度で洗浄・消毒したスコープを検査に使用している」ということを証明することができます。

【結語】

今回、導入した「ウォシュレコ」による履歴管理は、個人の記入漏れやミスを防ぐとともに、病院のリスク管理の一つとして確立していると考えられる。今後の課題としては、一つのタブレットで始業点検や物品の管理、スタッフ教育や新人スタッフの業務マニュアルとして活用できるシステムを確立させていきたいと考えています。